

第2回 住民説明会要旨

第2回目の住民説明会は、平成21年12月21日に開催した第1回目の住民説明会を踏まえ、具体的な平面プランを用意して開催し、ご意見を伺いました。

この際の参集範囲としては、北浜地区の住民の方の他、濤沸湖及び周辺域の保全推進協議会の関係者や学識経験者等に拡大して開催しました。

開催日時等

平成22年2月26日(金) 15:00~17:00 網走市農村環境改善センター1階

説明者

環境省釧路自然環境事務所 次長 則久雅司、野生生物企画官 山田雅晃、川湯自然保護官 平田愛子、黒江隆太

北海道環境生活部自然環境課 大和田主査

(北海道網走支庁環境生活課、網走市市民環境部、小清水町産業課が同席)

出席者

地域住民の皆様他計24名

報道機関4社

説明概要

- 1 濤沸湖において施設整備を行う背景
第1回目住民説明会と同じ説明を行いました。
- 2 北海道内における類似施設の紹介
第1回目住民説明会と同じ説明を行いました。
- 3 施設整備の予定
第1回目の今後の予定での説明内容と同じく、平成21年度に基本設計まで、22年度に実施設設計と建築工事、23年度に展示工事と外構工事を予定していることを御説明しました。
- 4 濤沸湖における施設整備の概要
建設予定地を北浜地区の白鳥公園隣接地とした検討経緯と整備の内容について御説明しました。
 - (1)北浜地区の選定
第1回目の説明内容を簡潔にまとめ、インフラが整備済みであること、白鳥公園との連携した利用が可能であること、野鳥や湿地植生の観察が行いやすいこと、交通アクセスが比較的容易であることから、北浜地区の白鳥公園隣接地を選定したことを御説明しました。

(2) 整備にあたっての配慮事項

整備にあたっては、景観、野鳥の生息環境、ヒオウギアヤメや希少種の移植、自然エネルギーの利用といった環境面での配慮の他、地域の方々に有効利用していただくこと、白鳥公園の野鳥観察舎との連携を考慮することを御説明しました。

(3) 施設運営のイメージ

施設については、協議会方式による運営とすることなどを御説明しました。

(4) 施設の平面プラン

設計と施工を環境省から委任している北海道より、基本計画に盛り込む予定である平面プランについて説明を行いました。

- ・北浜地区の白鳥公園隣接地に整備するという方針を受けて、施設配置案を作成。隣接する観察舎との一体的な利用に配慮。
- ・素堀側溝は、道路の排水のためのものだが、白鳥公園と一体的に利用できるよう埋設して使用。これにより、ヒオウギアヤメ再生地の改変面積を少なくすることに寄与できる。
- ・建物内の平面プランについては、どのような使い方をするかで変わってくる。住民の皆さんの意見を聞いて検討したい。今回の案では、一般利用エリアは湖側、管理用エリアは道路側としている。
- ・展示については環境省とも相談中。濤沸湖の自然やワイズユースが行われていることを紹介する内容としたい。また、ハンズオン展示としてぬいぐるみで野鳥の重さを体験できるような体験型の展示を考えたい。
- ・室内から見る景色も展示として利用したい。
- ・レクチャールームは学校利用にも対応できるようにしたい。
- ・野鳥観察は早朝であるため、トイレは24時間対応も可能なように、入り口を施設の内外の2箇所に設ける予定。
- ・バリアフリー対応 CO2 削減に配慮した構造とする。
- ・平成 22 年度は、実施設計を行い、その後に建物本体工事を行う。工事は早くても9月頃に着工。ただし、土質が悪いため基礎に杭を打つが、その時期がカモ類の飛来時期と重なるおそれがあるので、その際には施工時期の配慮をしていきたい。